

平成30年度第1回臨時社会教育委員会議事録（議事要旨）

- 1 開催日時 平成30年7月19日（木）午後2時～午後4時
- 2 開催場所 市役所10階 協働会議室
- 3 出席者
（委員）
藤田委員長、松木副委員長、大塚委員、松浦委員、田中委員、山崎委員、茂泉委員、藤巻委員、百瀬委員、
（事務局）
生涯学習部長、生涯学習部次長、郷土博物館長、中央図書館長、青少年センター所長、生涯学習課長、高洲公民館長、市民スポーツ課長、青少年課長、生涯学習課主幹、生涯学習係
- 4 傍聴人 1人
- 5 議題
 - （1）協議事項
 - 1）社会教育委員の提言「浦安っ子を支える地域の力」について
 - （2）その他
 - 1）次回の会議日程について
平成30年9月26日（水） 午後2時00分から午後4時00分
市役所10階 協働会議室
- 6 議事概要及び会議経過
 - （1）協議事項
 - 1）社会教育委員の提言「浦安っ子を支える地域の力」について
「浦安っ子を支える地域の力」の研究の方向性について委員長より説明があった。それを受け、調査・研究の対象となる団体について各委員の意見を基に協議し、対象団体の選定を行った。
委員からの主な意見等は以下の通り。
（委員）1つ目の対象団体として、浦安市立小中学校PTA連絡協議会（以下、市P連）を選びたい。現在、市立小中学校26校の内、加盟校が19校、未加盟校が7校で

ある。特に、新町の小中学校に未加盟校が多い点に地域差といった浦安市の課題があると考えている。また、市P連だけでなく、各学校PTAにおいても、役員不足、親の就業率の増加によるPTA活動への参加率の低下、少子化に起因する組織力の低下といった課題が明確になっている。それらの課題を解消する為にも、各学校PTAが互いに連携し、効果的に対応していける組織が必要であると思う。市P連がその本来の目的を果たす為に、支援が必要なのだと感じている。その支援の在り方を研究していきたい。

2つ目に、浦安市子ども会育成連絡協議会（以下、市子連）を選びたい。地域の教育力の重要性を考え、市子連はその核となる組織として期待している。

3つめに、「NPO法人ヤングドアシスト」を選びたい。ヤングドアシストは、公民館で地域の子どもの様々な体験活動を行っている。NPO法人の抱えている課題や地域や学校、行政との連携の在り方を研究していく必要がある。

- (委員) 発達障がいのある子どもたちを対象にした障がい者スポーツに取り組んでいるので、青少年相談員連絡協議会の活動や課題を知りたい。また、今の子どもたちはサッカーなど一部のスポーツに偏っているように感じている。総合型地域スポーツクラブの取り組みや課題を知る中で、幅広いスポーツの在り方や意義を見出していきたい。
- (委員) 体育協会を推薦したい。スポーツを通して、青少年の心身の育成の在り方についてより深く考えたい。また、市子連の抱える課題として、若い指導者（ジュニアリーダー）の育成があると考え。それに対して、どのように考え、どんな実践をしているのか研究したい。最後に、エコフレンド浦安の実践や、それに関わる青少年の様子から環境問題への意識や実態を調査したい。
- (委員) 最近、地域の伝統音楽を発表する機会が増えている。浦安市は、伝統音楽がとても少なく残念に感じている。その中でも、浦安囃子保存会の方々は、浦安小学校のクラブ活動の指導者として、毎週指導されるなど伝統

音楽の継承に尽力されている。浦安囃子保存会の考えや、取り組みを深く調べることで、浦安市の課題を解消する糸口となったり、保存会の抱えている課題を支援する一助になったりすることを期待している。

- (委員) 大前提として、どの団体を選んでも、浦安市の青少年を支援する団体としての切り口が異なり、団体の魅力や青少年支援における重要性を知ることができると感じている。その中で、スポーツを通して、青少年をどのように支援していくのか、人材育成を図っていくのかという観点から、スポーツ推進員連絡協議会や総合型地域スポーツクラブを調べたい。

現時点での課題を知り、未来を見据えた子どもたちの育成を図る上で、子どもたちを育成するそれらのプロセスを知る重要性は高いと感じている。また、今後、学校教育の部活動が、社会教育に移管していく流れがある中で、地域にその受け皿となる基盤があるのか、地域にそのような包容力があるのかを見定めていく点からも研究の必要性を感じる。

スポーツとは違う視点で、子どもたちを支えていく機能として市子連のように各地域やサークルでリーダーを育てる仕組みが将来的にも機能するのか、現状どのように機能しているのかを知る必要がある。これらを知ることで、将来を見据えた浦安っ子の育成に繋がると思う。

また、農園クラブの活動にあるような食育や生産、環境といった側面から、子どもたちをどのように育成していけるのかは面白い切り口だと感じる。

- (委員) 婦人の会連合会には、学校PTAの保護者への支援活動を行っていると聞き、社会教育関係団体同士の更なる連携を期待している。

- (委員) 「子どもは地域で育つ」というのが私たちのコンセプトであり、そこに「浦安に対する誇り」を加えると、婦人の会連合会の取り組みがまず一番に考えられた。子どもたちが学校や博物館を通して、婦人の会の方々から学んだ貝剥きなどを、より身近に感じられるように地域の大人たちが支援していく必要がある。それら

がふるさと浦安立志塾などに繋がったりしていくと思う。

(委員) 美浜公民館の主催事業である「美浜ミュージッククラブ」の活動を通して社会教育の力を実感した。学校教育では居場所が得られづらい外国籍のお子さんや保護者が新しい友達関係の中で、生き生きと活動する姿が見られた。更に、大人で引きこもりの方が、子どもたちとの関わりの中で、少しずつクラブへ通えるようになり、最終的には就職活動を始められた。

また、練習の成果を老人ホームで発表していたので、高齢者との関わりを通して、子どもたちの満足感や自己肯定感の高まりを肌で感じた。

クラブは異年齢の交流なので、上の学年の子が下の学年の子の面倒を見ることが当たり前になっている。大人の支援が年を重ねるごとに減っていた。

これらを実感することで、公民館を中心とした社会教育施設の持つ教育力の凄さや素晴らしさを知ることができた。なので、公民館を核として活動しているNPO法人ヤングアシストの活動を調べたい。

(委員) 市P連や市子連のように地域で学校を支える組織の必要性を感じている。しかし、市P連の未加盟校の課題など社会や家庭の現状に対応していくことが必要だと感じている。また、少年消防団の人気が出ており、その人気の理由を探ることで、青少年支援の糸口になるのではと思っている。

(委員) 婦人の会連合会では、会員の高齢化による伝統技能の継承が大きな課題である。その課題解消に向けて、今年度、郷土博物館の事業として貝剥きを地域の方に伝える取り組みを行っている。また、婦人の会の中でも、同様の取り組みをしている。浦安の歴史や伝統を未来へ伝え残すことを何より考えている。

(委員) 学校や博物館の取り組みはとても良いのだが、1回しか経験できないのは残念である。学校教育の中で繰り返し行うことは難しいのであれば、地域が学校の取り組みと連携することで効果的な学習にできると思う。

(委員) 市子連について詳細をお聞きしたい。

(事務局) 子ども会は、各地域の小学生等をその地域で育てることを目的とし、取り組みとしては、夏休みのラジオ体操やゴミ拾い、資源回収などを行っている。市子連は、各子ども会の活動の充実を目的に組織されており、各子ども会に対して、活動の奨励や講習会等の実施を行っている任意の団体である。

市より社会教育関係団体活動補助金を交付している子ども会は36団体あるが、現在、市子連に加盟している子ども会は10団体である。

協議の結果、調査・研究の対象となる団体は、市P連、市子連、総合型地域スポーツクラブの3団体に決定した。また、少年消防団、農園クラブの活動についても検討していくことにした。

(2) その他

1) 次回の会議日程について事務局より説明。

第3回定例社会教育委員会議

平成30年9月26日(水)午後2時00分から

市役所10階 協働会議室

以上で会議は終了した。